



オルタナティブ 文明論

田坂広志

日本が牽引する 世界の新たな文明

このオルタナティブ文明論も、最終回を迎えた。人類の文明は、これからどこに向かうのか。その問いを掲げ、語り続けてきた。

最後にもう一度、洞察を語っておこう。

これから世界の文明は、弁証法的発展を遂げていく。特に、弁証法の二つの法則に基づき、新たな文明への変容を遂げていく。

第一は、「螺旋的発展の法則」。この法則に基づけば、古く懐かしい文明が、新たな価値を伴って復活してくる。すなわち、かつて世界の中心にあった東洋文明が、新たな形で復活してくる。それは、日本に続き、中国やインド、韓国などアジア諸国が、急速な経済成長を遂げ、二一世紀は「アジアの世紀」と呼ばれることに象徴されている。

第二は、「対立物の相互浸透の法則」。この法則に基づけば、対立するかに見える東洋文明と西洋文明が、互いに融合していく。それは、アジア諸国が、欧米の科学技術や資本主義、社会制度を取り入れながらも、自国の文化と融合させ、独自の資本主義や社会制度を生み出していることに象徴されている。

では、世界の文明が、その変容を遂げていくとき、日本の果たすべき役割は、何か。

二つの洞察を述べ、結語としよう。

第一に、日本という国は、東洋文明の中でも、最も深く洗練された、精神、思想、文化を持っている国である。例えば、仏教の系譜においても、禅という最も純化された仏教を、さらに透徹したものへと深化させている。さらに、この禅の思想は、茶道、華道、俳句などを通じて、庶民の日々の生活にまで深く浸透

している。また、仏教そのものも、「縁」や「一期一会」などの言葉を通じて、日常生活に浸透している。そうであるならば、これから東洋文明が新たな形で復活するとき、この日本という国は、その足下の大地に宿る深みある精神、思想、文化にこそ光を当て、世界に伝えていかなければならない。

第二に、日本という国は、「和魂洋才」という言葉に象徴されるように、西洋文明を積極的に取り入れながらも、それを鵜呑みにせず、常に「日本的スタイル」や「日本型システム」に変容させてきた国である。そして、この国は、「大乘仏教」や「八百万の神々」の国であり、多様な精神、思想、文化を、しなやかに取り入れ、共存させ、見事に融合させていく叡智を持った国である。そうであるならば、これから西洋文明と東洋文明の融合が起こるとき、この日本という国は、その融合の舞台となっていかなければならない。

そして、この歴史的使命に取り組むとき、我々は、日本という国の持つ、精神、思想、文化の根底に、世界がめざすべき大切な二つの価値が宿っていることに気がつくだろう。

謙虚さ、そして、寛容さ。

二一世紀の世界に求められるものは、究極、その二つの価値に他ならない。

たさか・ひろし 81年東京大学大学院修了。工学博士。87年、米国バテル記念研究所客員研究員。90年日本総合研究所の設立に参画。取締役・創発戦略センター所長等を歴任。00年多摩大学大学院教授に就任。同年シンクタンク・ソフィアバンクを設立。03年社会起業家フォーラムを設立。08年世界経済フォーラム(ダボス会議)のGlobal Agenda Councilのメンバーに就任。著書に「目に見えない資本主義」「未来を予測する5つの法則」など60冊余。

次号から随想形式で綴っていただきます



Illustration : Hattaro Shinano